

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2 | 使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	札幌医科大学教育研究施設Ⅲ改築工事	階数	地上6F
建設地	札幌市中央区南1条西17丁目291-85他	構造	SRC造
用途地域	商業地域、近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	最大516人
気候区分	2地域	年間使用時間	5,840時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2015年9月30日
敷地面積	21,468 m ²	作成者	
建築面積	554 m ²	確認日	2015年9月30日
延床面積	3,418 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>・既存の保健医療学部建物との一体的連続感と先行する教育研究施設Ⅰとの外観調和を念頭に計画</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>注) 「A: 省エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>・外断熱工法の採用による暖冷房エネルギーの削減</p> <p>・ホール吹き抜けを利用した中間期の自然通風取り入れ</p> <p>・ホール、階段室周りのカーテンウォール採用による自然採光の取り入れ</p>	<p>D 雪処理</p> <p>注) 「D: 雪処理」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>・地上面は適宜除排雪を行う管理体制</p> <p>・6階屋上は「ラ」ハット高1.6mとすることで、雪庇防止対策</p> <p>・7階屋上は「ラ」ハット高0.8m+斜め笠木とすることで雪庇防止対策</p>
<p>B 省資源等</p> <p>注) 「B: 省資源等」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>・外断熱工法、断熱サッシ+Low-Eガラスの採用による長寿命化建物とし、長期的な省資源化を図る</p>	<p>C 緑化</p> <p>注) 「C: 緑化」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>・道路境界際に中高木の植栽による憩いの環境創出(別途外構工事)</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される